

県政ネットワーク

県政ネットワーク 発行者発行人 田中ただみつ
 所在地 〒633-2166 宇陀市大宇陀迫間5-1-3
 電話 0745-83-1188 FAX 0745-83-3272
 携帯電話 090-1440-3444
 ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~tadamitu/>
 E-mail tadamitu@sweet.ocn.ne.jp

平成26年度予算成立

2月26日開催された2月定例県議会は、平成26年度に向けた予算審議が中心でした。

そして、今年度(25年度)補正予算が追加上程され、平成26年度予算と合わせ審議されました。国の予算の中で25年度補正予算を受けての県補正予算であり、(自民党政権になってから景気浮揚のため多額になっているのですが)2月から県議会で審議し始めて3月の下旬に奈良県の予算が成立します。このため、補正予算を奈良県が執行できるのは、平成26年度に入ってから一番先に補正予算を使う段取りが組まれます。奈良県予算は、他の県と同じように、毎年額が減少していましたが、今年は、わずかですが増額になりました。

過疎対策

毎年、過疎・へき地小規模学校に関して、議員連盟として、知事と県教育長に要望活動をしています。広大な面積でありながら生産性が低く、かつ人口が少ないための悩みは深い。過疎地・へき地教育振興議員連盟として、予算要望を行いました。



予算の内示

自民党議員への予算説明が行われた。26年度予算の概要、26年度の重点目標などが説明された。



研修活動

東京四谷にある土木学会で、「交通まちづくり—実践のこれまでとこれから—」をテーマとして、セミナーが行われた。基本的な考え方、実践、実施しての課題等、視野を深めることができました。(3月8日)



四月—人事異動—

県教育委員

東吉野村ご出身の高本恭子さん(26年生、橿原市在住)が、奈良県教育委員に任命され県議会に同意を求められました。もとより異存なく、25日の議案採決の日に同意しました。

読者の多くの方はご存じだと思いますが、旧姓高木恭子さんで、大宇陀高等学校の卒業生です。現在、音楽療法士として、橿原市内にある病院でご活躍中です。

大宇陀高等学校の卒業生としては、数年前の、浜上和康さんに次いで就任されたこととなります。

また、新しく県教育委員会教育委員教育長に就任された前教育委員会理事の吉田育弘氏は、就職しての初任地が大宇陀高等学校でした。大宇陀高校を御存じの方が、県教育委員会の中核部にいてくださることに心強く感じています。御活躍をお祈り申し上げます。

警察

警察の組織が再編され、宇陀市、東吉野村は、桜井署の管轄となりました。

宇陀署は、桜井警察署宇陀分庁舎となり、その分庁舎長に(任警視)西田典弘氏が就任しました。西田氏は、交通部の高速道路交通警察隊副隊長からの就任です。

決議

地元の産業の立場からも必要だとの提案があり、下記の通り決議案が提出され、満場一致で議決しました。

「大和のうま酒で乾杯」を推進する決議

奈良県におけるお酒にまつわる歴史を見ると、古くは万葉集に「味酒(うまざけ)三輪の山あおによし」と歌われ、古代から名酒の産地であったこと、中世には近代醸造法の基礎となる酒造技術が正暦寺で確立され、日本酒発祥の地として知られていることなど、奈良県と、お酒は深いつながりがあります。

和食が日本人の伝統的な食文化としてユネスコ無形文化遺産に登録されたこともあり、奈良県の酒文化が、伝統産業のさらなる発展と、国際交流の推進に寄与することを目的として、県民の皆様のご理解、ご協力のもと、本県議会「大和のうま酒で乾杯」を推進します。

右、決議する

奈良県議会

平成26年関係予算当初

一般会計予算	477,115 百万円
特別会計予算計	197,596 百万円
特別会計のうち額の多い4特別会計	
公立大学法人県立医科大学	6,629 百万円
奈良県流域下水道事業	11,973 百万円
県営競輪事業	11,105 百万円
県公債管理	156,076 百万円

平成25年度2月補正予算

一般会計補正予算	14,561 百万円
特別会計計	861 百万円

平成25年度3月補正予算

3月に入ってから補正予算は、25年後中の諸般の事業で予算の減額や増額、事故等による補正、また26年度にずれ込んで事業を続けることを認められたいとの提案でした。

3月28日奈良県広域消防組合設立

奈良県内の奈良市と生駒市を除く市町村がそれぞれの消防署体制を解き、新しい組織として活動することに同意が成立したため、4月1日より活動を開始することになりました。宇陀消防組合はその傘下に入ることになりましたが、体制準備のため全面的な統制指揮下に至っていません。目下総務部門を、奈良県広域消防組合として運営することにしています。

当面、消火・救急搬送等の出動業務はいままで通り。



県議会報告

二月議会

本会議

定例二月議会は、二月三日に召集されました。県議会の招集は、通常、奈良県知事によって行われます。今回は、予算関係提案二十四件、条例が、三十二件、諸案件の・・・については二十四件でした。

今回の議会で感じたことは、奈良県の独自性、いわゆる奈良モデルをいろんな分野で試みていることです。国際的なつながりを自治体運営につなげようとする活動は、すでに行われているのですが、奈良県がリーダーシップを取ながらアジアの自治体がその先進的な活動を取り入れやすくすることで、アジアにおける奈良県のステータスをあげ、アジアの人たちに奈良を目指して日本に来るようにする野心的な試みだと感じています。事実アジアの国々では、国家としての法律体系なり、政策推進の進め方を日本流で行い、社会開発



3月25日建設委員長報告をした。於、本会議場

に、つながっていることが多いのですが、地方自治体の運営についてはアジアの各地域では日本が先進的な状態です。アジアに向かって協力体制をとる必要性があります。日本国内での、東京、大阪等、大都市の運営はさておき、地方都市の先進地として、頼るべきは奈良との姿を打ち出そうとの思いを示しています。

また、県民生活に直結する**自治体消防体制**についてですが、奈良県では、奈良市、生駒市をのぞく市町村が、一つの本部体制の消防署として活動を始めることになりました。裏面にも掲載しましたが、国による方針は、三十万人をめぐりとして組織体を編成することを目指していますが、奈良県はそれをほるかにしのご消防組合となりました。

そこから生じるメリットは、総務部門の統合をおすすめ、経費の削減を目指すことができるようになることです。又、近い将来（平成二八年度には）、通信設備の統一化を図り、救急搬送体制の抜本改革を果たすことができます。救急車に乗ってから、病院の選択がスムーズに行えるよう指令体制を改革することができそうです。県民の安心をより一層確実にするための方策が進みつつある状況です。

建設委員会

一月二十八日から建設委員会で県外調査に出かけました。

下段右の写真は阿蘇地域の中で、赤い矢印のところあたりから山の斜面が滑り落ち、平野の田畑を飲み込んだ場所です。雨による崩壊は、土砂が水で流されるため、広範囲の田畑が流失していました。耕作を再開するための区画整理、水路も再建や石の除去等、復旧する作業が進められていました。また、都市部では、福岡市内では、雨水の貯



留施設ができていました。奈良県でも応用できる施設と考えられるのは遊水地でした。雨期になると、大和川や盆地内の河川の氾濫が心配されていますが、住宅地域が浸水しないように、川の氾濫を食い止める遊水地設置の必要性を感じました。

予算獲得運動

来年度予算に関して、知事の要請を受け国会議員への説明、協力要請活動とそのあと関係省への予算について要望活動を行った。朝八時より県出身の国会議員に集合いただき、奈良県の来年度の主な取り組みと、伴う予算について説明し、取り組みへのご協力方をお願いしました。



国土交通省、総務省、財務省へ行き、それぞれ関係のある項目について、事情の説明や事業推進に協力をお願いした。国土交通省では太田大臣から執務室に招かれ、諸案件の陳情を受けていただき、奈良県の事情についての認識の深さを披露された。左上のツーショット写真は、公明党岡田朝長議員と国土交通省で撮影したものです。

予算の具体的な取り組み

みつえ高原牧場

四季折々の景観・眺望を創造し、県民憩いの場としての付加価値を高めるため、牧場敷地内周辺の整備をおこなう。

具体的には、植栽されている部分の間伐進入路あたりに花木の植栽を行う計画。

芳野川

河川沿いの観光施設や親水公園を周遊できるルートを形成するため、堤防を遊歩道として整備する。この事業は、県内のいくつもの河川が実施予定に入られている。

曾爾高原保全対策調査事業

曾爾高原におけるスキの生育回復を図り、景観向上による地域産業の振興につなげるため、保護管理基準を策定する事業

宇陀川下水前処理施設

維持管理費補助

菟田野毛皮革工場団地内の下水前処理施設維持管理費に対し、県が二分の一助成する。予算額は、二千五百拾万円

伝統的建造物群保存修理補助

文化財保存事業補助として、伝統的建造物群保存修理補助が今年も行われる。奈良県の補助割合は、一〇パーセントで、橿原市、五條市、宇陀市の三市の合計として、千六百七拾万円を確保した。宇陀市では、それに対応して、千四百七拾万円の予算を付けています。地元との話し合いが成立すれば六棟ほどの改修が行える予定です。

宇陀川流域下水道

補助事業として、宇陀川流域浄化センターの施設更新が進められてきました。ほぼ、更新すべきことを終えたのですが、メンテナンス関係で整備をすすめます。また、県単独事業として、フェンス設置工事が県費で行われます。

南部・東部振興

奈良の東部が生き残っているのかどうか、地域振興は市、村自治体との連携で行われることが基本となっています。市村からの提案や、積極的な働きかけが必要です。

田中ただみつ後援会収支報告

前年繰り越し	254,939
本年の収入	3,071,099
収入総額	3,326,038
経常経費	2,128,931
政治活動費	750,416
支出総額	2,879,347
翌年への繰り越し	446,691

昨年も紙面に報告しましたが、平成二十五年度田中ただみつ後援会の収支報告を選挙管理委員会に提出しました。内容は、昨年とあまり変わりはありません。

詳細の閲覧は、後日県選挙管理委員会にて、できます。ご高覧ください。

県立大宇陀高等学校 創立九十周年

昨秋、式典を終えた実行委員会は、費用支出の監査を終えたことよって役目を果たしました。今回の、式典のなかで、大阪教育大学の吹奏楽団が演奏をされ、大宇陀高等学校の校歌をDVDに残してくださいました。高等学校同窓会では、一枚一〇〇〇円で販売できるように、年度の同窓会幹事の方には申し込んでください。

編集後記 今回は印刷を奈良新聞社様にお願いました。どのように仕上がっているのか楽しみです。